

2. 航海の目印“大山”

< 信仰の対象としての“大山” >

- ・ 朝鮮半島からの海流、天然の良港という地理的な優位性はあったが、なぜこの地にこれほど多くの大陸文化が伝わったのだろうか。
 - ・ そこに霊峰「大山」の存在がある。今のように羅針盤とか、GPSのない時代に航海の目印は、北極星であった。そして、もう一つの目印が「大山」であった。

 - ・ 太古に大海原を渡ってきた渡来人たちが目指してきたのが「北極星」と「大山」であるとするならば、その存在の大きさは現代の我々にも容易に想像できる。
- ☑ 伝承者 杉本良巳氏：
- ✓ 出雲神のシンボルマークは「亀」であり、出雲大社にも大きな亀の像がある。
 - ✓ この亀は、「北極星」を表している。すなわち出雲神の信仰は、北極星の信仰へつながっている。
-
- ・ そして、この地にもう一つ根付いた信仰が大山への信仰である。古代の信仰は、仏教とか、神道とかでなく“大山”という山自体を信仰の対象とするものであった。
 - ・ 中国には、高い山に死者の霊が宿るという考え方がある。中国人が一度は登ってみたいという「泰山(たいざん)」の信仰が物語っている。
 - ・ 大山に伝わる“賽の河原”信仰の原点を見ることができる。
 - ・ 杉本氏は、確証はないが大山の語源も泰山の辺りから来ているのではないかと語る。渡来人たちの航海を見守ってくれた「大山」と彼らの持っていた信仰が結びついたのかも知れない。

 - ・ 大山信仰は、農業との関わりが大きい。農業に大切なのは、水と気候である。
 - ・ 歴史をさかのぼると「大山の歴史」は「水の歴史」でもある。大山寺の起源が書かれている大山寺縁起にも、大山は清らかな水が湧く場所であると描かれている。
 - ・ 大山は太古の昔から、この地に根を下ろし台風などの悪天候から我々を守ってくれている。私が実感していることであるが、大山を越えて台風が北上してくることはほとんど記憶にない。また、台風が接近している際に、ある山に登ったことあるが、その山の南側に台風がある時、台風を背にした北側の斜面では驚くほど風が弱かったことを覚えている。大山が、その北側に位置するこの地方を守っていることを実感する。
 - ・ このように大山山麓の人たちは、大山の恩恵を受けて暮らしていたのである。

< 大山信仰と海との関わり >

- ・ 大山信仰と海の関係にも興味深いものがある。大神山神社に祀られているのは、「オオナムチの神」すなわち「大国主命」である。

☑ 伝承者 相見行佳氏：

- ✓ 航海の安全を祈願することで有名な、金比羅さんに祀られている神様も大国主命である。つまり、金比羅さんに参るのも、大神山神社に参るのも、出雲大社に参るのも同じことであると笑う。

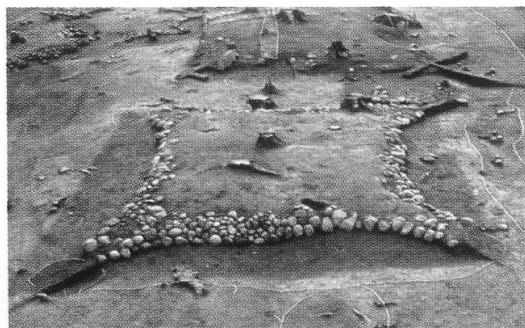
- ・ 天承3年(1173年)焼失した大山の寺坊を再建した紀成盛は、海六兵衛といわれ海運で財をなした一族であり、海に関わる人たちからの信仰をものごといている。ちなみに、紀成盛の家は、岸本の長者原にあった。というより長者であった紀氏が住んでいたから「長者原」と呼ばれるようになったようである。
- ・ また、大神山神社奥の院の横にある下山神社の紋章も六角形の亀の紋章である。
- ・ このように大山信仰と北極星信仰、そして海とのつながりが伺える

- ・ 妻木晩田遺跡で見られる四隅突出型墳丘墓について杉本氏は次のように語る。

☑ 伝承者 杉本良巳氏：

- ✓ この四隅突出型墳丘墓は、亀の形を模したものであろう。突出した部分が墓道という説があるが、墓道なら一箇所が良いはず。
- ✓ 亀のお墓は新羅に原型があるが、人は死ぬと亀に乗って海に戻るという信仰に基づくものである。

- ・ 大陸に古くからある
 - 死者の霊は、高い山に宿るという信仰
 - 死者の霊は、海に戻るという信仰
- ・ これらの大陸の文化が融合して伯耆の文化が形作られたのかも知れない。



四隅突出型墳丘墓

前方後円墳の出現によって四隅突出型墳丘墓は衰退していきます。この墳丘墓は、出雲文化圏の盛衰を伝える大変貴重な遺跡といえるでしょう。

大山王国 歴史文化 探訪 MAP より